

循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダ（G7 ACT）

- 2024年4月にイタリアで開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合のコミュニケにおいて、G7資源効率性アライアンス（G7ARE）（※1）に対して、「共通かつ自主的な循環型繊維・ファッションに関するアジェンダ」を2024年末までに策定を求める旨が記載された。
- これを受け、2025年12月5日にローマで開催されたG7ARE会合において、循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダ（G7 ACT（※2））を策定。
⇒より循環型で持続可能な繊維・ファッション業界への移行のために、グローバルバリューチェーンの政府、企業、利害関係者、労働者、パートナー間の協力と知識共有を促進することを目的とし、
6つの課題を特定して、各課題に関連する各国やG7レベルでの自主的な行動を規定。

【6つの課題に関する具体的な課題と可能なアクション】



●課題1：製品及び素材の長寿命化

＜具体的な課題＞

- ・繊維製品由来のマイクロプラスチック等の汚染のリスク、非循環型ビジネスモデルによる低品質繊維製品の大量生産及び低価格化の助長、繊維製品の生産・消費による環境への悪影響に関する知見の欠如 等

＜可能なアクション＞

- ・非規制型の枠組みや政策手段による繊維製品の分別回収・分別・再利用・修理・リサイクルの促進、修理サービス等の循環型ビジネスの拡大促進、製品の耐久性の向上に資する職人等の支援、有害物質の代替品使用の検討、G7における循環型デザインに関する優良事例の共有、地域のサプライヤーやブランドからの生産増加の奨励 等

●課題2：バリューチェーン全体における製品・素材の持続可能性と循環性に関する明確性・透明性

＜具体的な課題＞

- ・データ要求と認証のコスト高、様々な持続可能性指標・基準の乱立、強制労働、サプライチェーンの透明性

＜可能なアクション＞

- ・バリューチェーン全体の透明性と追跡可能性の向上、循環性等に関する明確で効果的な情報の消費者への提供、循環性等の簡易に情報共有するための自主基準の共同開発等、既存の繊維認証を活用したサプライチェーンのデューデリジェンス促進 等

（※1） The G7 Alliance on Resource Efficiencyのこと。2015年に設立され、産業界、公的部門、研究機関、学界、消費者、市民社会等の関係者とともに、G7国間で循環経済や資源効率性に関する優良事例を共有し、連携していくためのアライアンス。循環経済におけるG7の合意形成の場。

（※2） G7 Agenda on Circular Textiles and fashion

循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダ（G7 ACT）



●課題3：革新的な素材、リサイクル素材及び効率的な生産プロセスについての市場への普及

＜具体的な課題＞

- ・革新的なリサイクル材等についての市場需要の不透明さ、二次原料の物流の不足、リサイクル材のコスト高 等

＜可能なアクション＞

- ・リサイクル等についての革新的な生産プロセスや物流に対する産業政策支援、バイオベースや循環型材料等の研究開発投資、持続可能で環境に優しい公共及び民間調達に関する好事例の共有 等

●課題4：循環型ビジネスモデルへの移行をはばむ経済的障害

＜具体的な課題＞

- ・過剰生産やストックの投棄・焼却を助長する現行ビジネスモデル、ファストファッションを好む消費者の習慣と、価格に反映されない環境と社会への悪影響

＜可能なアクション＞

- ・持続可能で循環型の繊維・ファッション製品への消費者行動の転換、グリーンウォッシュ対策のための消費者への情報提供 等
- ・持続可能な繊維・ファッション製品がより売れる市場の実現促進、EPR制度の好事例共有、リサイクル材の起源・供給源確保 等

●課題5：使用済み繊維製品及び繊維廃棄物の循環性におけるギャップ

＜具体的な課題＞

- ・不十分なインフラ、循環のための取引繊維廃棄物に関する情報の不足、途上国等の関係者が問題解決へ関与することの制限

＜可能なアクション＞

- ・繊維廃棄物の処理・リサイクルのための技術・インフラ・能力開発支援、使用済み繊維製品や同製品の市場監視の強化
- ・使用済み繊維製品等の取引の持続可能性向上のための議論と取組支援、協力国への繊維廃棄物の利用と再利用の能力開発支援 等

●課題6：持続可能でない原材料の代替

＜具体的な課題＞

- ・持続可能材料の経済的インセンティブ、持続可能な繊維原料等へのアクセスの不足 等

＜可能なアクション＞

- ・研究・イノベーションへの投資、企業レベルの情報開示に関する官民対話の促進
- ・ブランドと小売業者の協力を促進、共通の理解を得るためのG7間の対話の実施、リサイクル原材料使用と自発的相互承認の奨励

⇒今後、本アジェンダを踏まえた継続的な議論が、G7の場において行われる見込み。